



OVERSEAS

海外事情

Democratic Socialist Republic of Sri Lanka



—スリランカ民主社会主義共和国—

コロンボ近郊体験記



大坪 裕哉 OHTSUBO Yuya
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
関東支店 / 交通技術部

地理・歴史

スリランカはインド洋にある島国で、面積は北海道の0.8倍、人口は約2,000万人である。日本から約7,000km、直行便だと約8時間で到着する。首都はスリジャヤワルダナプラコッテであるが、1984年まで首都であったコロンボが現在でも主な首都機能を果たしている。近隣にはインドとモルジブがあり、スリランカ経由でモルジブに行くハネムーンの

人が多い。

南北約435km、東西約230kmの島であるが、南西部の街コロンボなど北東部の街ジャフナなどでは気候が異なる。滞在した南西部のコロンボは4～6月と10～11月が雨季、12～3月が乾季であり、年間を通して気温は25～30℃で日本の真夏にいる感じであった。一方、北東部は10～3月が雨季、5～9月が乾季であり、南西部より乾燥している。雨も少ないが、やはり平均気温は高く暑い。

スリランカでは1983～2009年まで26年間にわたり、スリランカ政府とタミル・イーラム解放のトラによる内戦があった。街を歩いていると内戦の爪痕を確認できた。

公用語

スリランカの公用語はシンハラ語とタミル語である。イギリスが統治していた歴史があるため、街中で道を聞くときや買い物をする場合は、英語で何とか話は通じる。しかし、地方に行くときに通じないことが多い。



図1 スリランカの地図



写真1 スリランカのカレー



写真2 シーギリヤロック



写真3 シーギリヤロックの遺跡



写真4 ゴールの要塞



写真5 列車からの絶景

食事

スリランカの主食はスープ状のカレーでとても辛い。地元の人々は3食それを食べる。インドのカレーとの大きな違いは、油分が少なく、自然の材料をそのまま味わうヘルシーなカレーである。

シーギリヤ

シーギリヤは、かつてスリランカに存在したアヌラダプラ王国の国王カッサパ1世によって、5世紀に建造された岩上の王宮とそれを取り囲む都市遺構で、1982年に世界遺産に登録された。周りに何も無い中、シーギリヤロックと呼ばれる一つ大

きな岩山が存在する。そして、この岩の上に宮殿が築かれていた。

シーギリヤはコロンボから車で約4時間のところに位置する。公共交通機関が整備されておらず、バスツアーもしくはチャーターしたタクシーでないと行くことが難しい。遺跡の敷地が広いので、一回りするだけで3～4時間かかる。観光客に人気のスポットで、朝早く行かないとかなり混むとのことで、朝4時にコロンボを出発した。

ゴール

港町ゴールは旧市街地全体が要塞に囲まれており、世界遺産に登録

されている。1589年にポルトガル人が最初の砦を築き、オランダ、イギリスと植民地にされてきた歴史があり、その都度要塞は拡張強化されてきた。

石造りの城壁は車が通れる幅があり、歩ける。2004年12月のスマトラ島沖地震による津波の際には、要塞に囲まれていた旧市街地は大きな被害を免れた。コロンボから列車で約3時間かかるが、旧市街地は半日もあれば観光が可能だ。

バドゥッラ

高地にあるバドゥッラは、町を囲むように川が流れ、周囲の丘陵に紅茶



写真6 社会人野球チーム



写真7 バスのレシート



写真8 ノーマルバス



写真9 インターシティバス



写真10 3ウィラーの車内



写真11 タクシー

のプランテーションが広がる。

スリランカの鉄道はイギリス人がセイロン紅茶の栽培を始めた際に、運搬用の路線を敷設したのが始まりだ。コロμποから列車で10時間もかかるが、朝早く出発すれば、車窓から素晴らしい茶畑の絶景を望むことができる。

社会人野球チーム

現地の社会人野球チームの練習に参加した。スリランカではイギリス発祥のクリケットがポピュラーなスポーツで、野球はマイナーである。以前、日本人がコーチをしていた関係からか、ユニフォームなどの備品は日本から寄付されたもので、使っていた日本人の名前がバットやユニフォームに書かれていた。メンバーは20代後半の社会人が多く、スリランカ代表に選ばれた選手も所属していた。言葉がわからなくても、ある程度プレイすることができるから面白い。

バス

日常的な足はバスであり、初乗り料金が約8円と、とにかく安い。長距離バスも400円ほどに抑えられている。とは言え、平均月収が日本の1/10と考えると、現地の人にとってそこまで安いとは言いがたい。切符はなく、車内で行き先を言ってお金を払ってレシートをもらう。そのレシートが切符の代わりである。

バスには必ず運転手と車掌が乗っている。バス停以外でも、手を挙げればどこでも乗せてくれる。現地の人は飛び乗り降りをしているので、乗降の際は要注意である。ピーク時のように運行本数が多い時間帯では、車掌が大きな声で行先を叫び、乗る人を拾うため、行先案内を注意深く見ていけば、うっかり置いて行かれることは少ない。

バスはノーマルバスと、エアコン付きもある快適なインターシティバス(セミラグジュアリーバス)が選択できるが、値段は約2倍違う。ノーマル

バスはインド製が多く、インターシティバスは日本のマイクロバスが多く走っている。高速道路を運行する長距離バスもあり、一般道路を通るよりも時間は半分になるが、金額は倍になる。

3ウィラー

3ウィラーは日本のタクシーに相当する3輪スクーターである。コロμποでの料金は1km約40円、その後100m毎に4円ずつ加算される。ただし、料金メーターがない3ウィラーの場合は運転手との交渉になるので、目的地までの距離が不明の場合は、多めに取られるケースもあり、やはりメーター付きが安心である。3ウィラーは営業免許が不要のため、平日は通勤に利用し、休日はタクシーとして営業している人もいる。

コロμπο市内を歩いていると、必ず「タクシー」と声をかけられる。よく聞くと、宝石や祭りがあるところまで乗って行かないかとのセールスト



写真12 鉄道



写真13 車内検札

ークで、実際、象の祭りに一緒に来ないかとの勧誘を1日2回受けたことがあった。

タクシー

スリランカでは3ウィラーがタクシー代わりに使われているため、本来のタクシーは少ない。予約して利用する。料金は3ウィラーに比べて若干高めめの1.5倍程度である。

鉄道

スリランカの鉄道は電化されていない。座席には等級があり、1等はエアコン付き、2等と3等は座席のグレードに違いがあり、1等と3等では料金も3倍異なる。2等150kmで150円程度だ。

1日の運行本数が少ないためか、車内は混雑している場合が多い。車内販売も多く、紅茶、辛い揚げドーナツ、バナナやマンゴーなどがあり、旅を楽しむのに良い。鉄道は様々な出会いがあり、スリランカの人から話しかけてくることも多かった。

自動車

スリランカの自動車の多くが日本

車である。一瞬日本と見間違えてしまうほど多い。日本車の評判は「壊れ難い」「メンテナンスをすれば長く乗れる」「燃費が良い」とのことだ。ガソリン価格が1ℓ約150円と高く、燃費が良い車が喜ばれる。

車の過剰な輸入を避けるため、日本の中古車は初回車検(3年落ち)の車しか輸入できない。また、関税が200%かかるため、トヨタプリウスの中古車価格は約250万円となる。日本で使われていた中古車は、カーナビやエアコンの表示は日本語のままだ。

都市部のコロμποでは新しい型式の日本車が見られるが、地方部のキャンディでは、20~30年前の日本車が多い。コロμποの朝夕は慢性的な渋滞が発生しているうえに、スリランカ人の運転マナーは良くない。皆が少しでも他の車より先に行こうと考えている。また、どんな道でも追い越しを行うため非常に危ない。さらに、譲り合いの精神がなく、無



写真14 コロンボの街中

理やり割り込まないといつまでも合流できない。

仕事の意義

スリランカでの1カ月間は、不安よりも毎日がいろんな発見と驚きであった。生活面では、冷房の設定温度が20℃になっていて驚いた。外は暑い室内はとてつもなく寒いので、長袖のシャツを着て仕事を行っていた。また、自分は大丈夫と自負していたが、実際に経験した毎日のカレー生活は辛かった。

今回、自分の行っている仕事のスリランカのために役に立っていると、改めてこの建設コンサルタントの仕事の意義を感じた。